

令和元年度 第1回 公民館運営審議会 会議録

1 日時・場所 令和元年9月24日(火) 10時00分～11時30分
三木市役所 5階 大研修室

2 出席者

<委員13名>

稲見秀行委員長	徳沢芳彦副委員長	蓬萊道龍委員
田中紀美代委員	猪坂克子委員	藤枝直司委員
疋田江利委員	池澤絹代委員	山本学道委員
藤井尚美委員	富田進委員	圓井恵子委員
福島康之委員	寺本善英委員	岡本貴美代委員
川端昭延委員		

(欠席：藤原敏行委員、大田直樹委員)

<事務局16名>

西本則彦教育長	奥村浩哉教育振興部長	
近藤豊生涯学習課長		
森本宏館長	藤田敏行所長	森本英樹館長
中嶋健二館長	狩場泰治館長	友澤幸嗣館長
金子高士館長代理	穂積正則館長	西馬英雄館長
福本和也館長	河端康主幹	木村巧

3 議題

(1) 令和元年度各公民館事業方針について

① 各公民館の活動目標及び各公民館の事業進捗状況について

4 公開・非公開の別 公開

5 傍聴人の数 0人

6 会議の概要

1 開 会	河端主幹
2 あいさつ	西本教育長
3 委嘱状交付	机上交付
4 報 告	2019年度三木市教育の基本方針(社会教育分野)について (近藤生涯学習課長説明)
5 議 題	
(1) 令和元年度各公民館事業方針について	
① 各公民館の活動目標及び事業進捗状況について (各公民館長より説明)	
6 閉 会	徳沢副委員長

7 発言の内容

議題（1）質疑応答

寺本委員： 今回の活動目標、事業の発表について、資料が工夫されており、地域ごとの取組みが見えやすくてよかった。住民学習の参加者数の減少は、人口動態も含め、仕方がないのではないかと。公民館活動についても、中高年が中心で、現役世代では女性も仕事を持ったり、男性も責任のある立場であったりして、精神的に余裕がないのではないかと。まち協などについて、公民館としての支援となっているが事実上は公民館が主体となっているのではないかと。原点回帰して、もっとまち協が主体となる必要があるのではないかと。志染地区も中学校の統合問題に直面している。地域にとって公民館も核であり、子ども核である。人口減少を視野に入れて、一つの公民館の参加者数に拘らずに、他地域交流もよいのではないかと。細川地区の住民学習においての、参加体験型を取り入れている理由を教えてください。

狩場館長： 細川地区の住民学習について、今年度の全地区が終了しました。アンケートの結果を見ても、視聴覚教材と違って、参加体験型は主体的に学習ができ、より理解が深まった等の回答がある。地域として、参加者が固定化している事情もあり、そのためにも有効と考えている。

福島委員： 男の料理教室の取り組みなど、良い事例が多々確認できる。ますます、精励してほしい。

川端委員： 今回の資料を見る限りでは。全ての公民館において、運営が非常に上手くいっているように見受けられる。しかしながら、まだまだ公民館について、知らないこともあるように思う。せつかくの審議の場なので、もっと個別具体的な議論をして、より良い公民館運営につなげていきたい。

藤枝委員： 地域が主体となって、まちづくりに取り組んでいく上で、高齢化をはじめとする、時代とともに変化する課題について、また、地域固有の問題に取り組んでいくためには、公民館の運営について、もっと深く議論する必要性を感じる。

奥村部長： 一昨年あたりから、各地域団体の自主自立にむけた取り組みを行っているが、当初は厳しい受けとめもあったが、徐々にではありますが、そういった意識が地域に浸透してきているように思う。今般の意見を真摯に受けとめまして、公運審の本来的な在り方について、検討させていただきます。

稲見委員長： 三木市内には、10地区全てにおいて、公民館が設置されている。今後、大切な地域づくりの拠点と考えるならば、公運審については、地域の意見を反映しやすくするためにも公民館毎にあってもよいのではないかと。

奥村部長： 公運審の在り方については、館長とも協議をすすめます。

稲見委員長： 本日の内容を受けまして、次回の審議会の際において、検討された内容をお示しいただきたい。
